



長門の話題 Topics

村田清風記念館がリニューアルオープン

清風と政之助の生涯を辿る

平成30年が明治維新150年となることから、村田清風記念館の展示内容の模様替えが行われ、1月19日(金)、リニューアルオープンしました。
オープニングセレモニーでは、浅田小学校6年生による朗唱「餐麦弓買(さんばくゆみをかう)」やコーラスグループ・コールアミカによる歌「偉



▲漫画を活用した分かりやすい展示にリニューアル

人「村田清風」が披露され、完成を祝った後、中野館長による館内の案内と説明が行われました。
館内は小学生から興味のある人まで段階に応じて3種類の説明板が新しく用意されたほか、漫画家の広中健次さんによる漫画を活用した分かりやすい展示がされています。



▲浅田小学校6年生の朗唱「餐麦弓買」

恒例のご来光登山イベント

初日の出に無病息災を祈願

1月1日(月)、恒例の「初日の出登山」が青海島の高山で開催され、県内外から約100人が参加しました。高山は平成28年度に「しま山100選」に選ばれ、山頂からは「波の橋立」や「海上アルプス」が望める絶景スポットとして知られています。
参加者は午前6時過ぎに懐



▲山頂で日の出を待つ参加者

中電灯を持って出発し、約40分かけて登頂。午前7時20分ごろ、東の空から太陽が現れると、参加者は一年の無病息災を願って初日の出を拝みました。
下山後には、地元食材を使ったお雑煮が用意され、参加者は冷えた体を温めていました。



▲手づくりのお雑煮で冷えた身体を温める

仙崎地方卸売市場で初競り式

仙崎市場の元気を取り戻す

1月5日(金)未明、仙崎地方卸売市場で初競り式が行われました。
式典では、県漁協長門統括支店の藤田昭夫運営委員長が「漁師、仲買人、漁協などが一体となって、安全・安心で鮮度の良い仙崎の魚を発信し、市場の元気を取り戻していきましよう」とあいさつしました。
初競りでは体長約60センチのマダイに3万円の値がつけられ、その後の競りでは競り人の独特な掛け声に買い手が応じて値段が決まり、新鮮な魚や貝などが次々と競り落とされていきました。



▲競り人の威勢の良い掛け声が市場にこだまする

平成31年8月の完成を目指して、いよいよ着工

新庁舎建設工事の安全祈願

1月11日(木)、長門市役所本庁舎建設工事にかかる起工式および安全祈願祭が、市役所南側駐車場の建設予定地で開催され、市関係者ら約60人が出席しました。飯山八幡宮の上田宮司による神事のほか、設計者・工事関係者の代表による鉄入りの儀や玉串の奉納などが行われ、工事の安全を祈願しました。
出席した大西市長は「新庁



▲鉄入りの儀で鉄入れをする大西市長

舎は全国からも注目され、市民からも期待されており、工事に携わる業者の英知を結集して安全で素晴らしい建物を完成してほしい」とあいさつしました。
市役所新庁舎は木造と鉄筋コンクリート造のハイブリッド構造の5階建て。木材は市有林から調達しており、7千平米以上の木構造の庁舎は国内でも初めてとなります。



▲市関係者や市議会議員、近隣自治会、工事関係者らが出席

安全・安心な農産物の安定供給を目指して

長門地方卸売市場で初競り

1月5日(金)、長門地方卸売市場で初競り式が行われ、市場関係者らが出席しました。
式典では、長門大津農業協同組合の小田保男代表理事組合長が「公的市場は安心安全な農産物の安定供給や地産地消という大事な役割を持っており、これからもしっかりと



▲大根や白菜、カブ、イチゴなど新鮮な野菜や果物が並ぶ



▲大根や白菜、カブ、イチゴなど新鮮な野菜や果物が並ぶ

関係機関で緊密な連携を確認

1月17日(水)、長門市・下関市・美祿市の各市で「平成29年度合同防災図上訓練」が行われました。長門市では、ルネッサながとアリーナを会場に訓練が実施され、11団体107人が参加しました。

訓練は前日にまとまった降雨があり、土砂災害発生の際の危険性が高まっているとの想定で行われ、土砂崩れや床下浸水、通行止めなど次々と被害が発生する中で、迅速かつ的確に対応する訓練が行われました。また、下関市、美祿市とも連携し、お互いの災害に対して支援する体制の確認も行われました。



▲次々と災害の情報が寄せられる中、迅速に対応する参加者

『尾崎真吾のみすゞギャラリー展』

これまでの作品を一挙展示

広報ながとの裏表紙を飾る「尾崎真吾のみすゞギャラリー」が連載200回を超えたことから、これまでの作品を一挙に展示するギャラリー展が1月13日(土)から8日間、ルネッサながと文化情報ギャラリーで開催されました。

平成17年4月に発行された



▲水彩画やパステル画のパネル 200点を展示

人の門の長 People

外国人が「住んで良かった」と思えるように

なかおか ひさえ
中岡久恵さん

(ながと日本語クラブ
／東深川正明市1区)



平成29年10月、長門市に居住する外国人の日常生活をサポートするため、地域住民を中心に「ながと日本語クラブ」が設立されました。現在は約20人のボランティアが集い、長門市中央公民館を拠点として、日本語の勉強のほか、生活に密着した手続きやゴミ出しのルール、買い物仕方などを教えています。

学生時代、海外に留学し、現地の中高生に日本語を教えるボランティアをしていた中岡さんは、クラブの設立を知り、経験



▲受講者にひらがなの読み方を教える(昨年12月の講座)

旬な人

命の素晴らしさ、日本語の素晴らしさを学ぶ 出張！ゴルゴ塾・命の授業

1月13日(土)、ラポールゆや開館20周年記念講演として「出張！ゴルゴ塾・命の授業」が同館で開催されました。ゴルゴ松本さんによる漢字や歴史の話など笑いを交えながら「命」「人生」「言葉」「日本人」をテーマに熱のこもった授業が行われました。



▲授業を行うゴルゴ松本さん

長門湯本温泉の発展を祈願

旅館関係者や自治会関係者が出席

1月1日(月)、深川湯本の住吉神社で、大寧寺の岩田住職によって長門湯本温泉の繁栄や門前・湯本・三ノ瀬地区の発展祈願が行われました。

また、市営公衆浴場「礼湯」でも温泉にお神酒を捧げるなど、温泉事業の1年間の安全と繁栄が祈願されました。



▲大寧寺の岩田住職により祈願

災害時に人的・物的支援を

12月22日(金)、長門市役所で宮城県本吉郡南三陸町と長門市の「災害時における相互応援協定」の調印式が行われました。

この協定は両市町が災害の発生により被害を受けた際に応急・復旧対策が円滑に行われるよう、人的・物的支援や被災者の受入などを相互に応援するものです。大規模災害が発生した際は近隣の自治体

も被災していると考えられ、遠距離自治体との協定が望ましいことから、南三陸町と締結することとなりました。

調印式には南三陸町の佐藤仁町長が出席。「東日本震災で近隣の自治体が同時に被災し、遠距離自治体との協定は重要。万一の際は、災害対応のノウハウを持った職員を派遣し、しっかりと支援をしていきたい」と話しました。



▲握手を交わす磯部副市長と佐藤南三陸町長



▲「一つひとつの積み重ねが安心安全を守ることにつながる」と佐藤町長